



山七小 「みつばち」の学校教育目標

み

未来に向かって

つ

強くたくましく

ば

ばねのようにしなやかに

ち

知恵と心を育てよう

重点目標の設定理由（よさ◎と課題●）

- ◎元気で明るい、素直でまじめに取り組む、素朴なよさがある
学年誰とでも仲良く一緒に遊べる
- よいと思ったことに進んで取り組もうとする気持ち
- 最後までやり抜こうとする意志
- 思いを伝え合う力（しっかり話す・わかりやすく伝える）
- 友達のよさががんばりに目を向け学び合おうとする意志
- ◎近隣に教育施設が多く理解のある地域の方に支えられている
- 地域について学ぶ活動が少ない
- ◎明るい校舎、学年のワークスペースが広く多様な集会・発表会が可

今年度の「めざす子どもの姿」

1 主体的に取組み、生活をよりよくしようとする子ども

- 問題を見つけて課題を設定し、
進んで解決するために取り組む
- ねばり強く、仲間とともにやり抜く

2 思いや考えを伝え合い、互いを認め合う子ども

- 相手意識をもって聞く
- 理由や根拠をわかりやすく伝える
- 友達のよさや苦手なことも認め合い、助け合う

評価と検証方法（教頭・教務）

- 学校評価（児童、保護者、学校関係者による）
- 客観的データ（全国学力・学習状況調査、県学力調査、標準学力調査、Q-U 質問紙結果）
- 教員の自己評価（教職員評価を兼ねる）
- 通知表内容の検討（3 観点・重点の評価項目）

◇ 七小の教育活動特色

子どもがつくる
二大行事
運動会・学習発表会

子どもを育てる
キャンペーン
全校で重点的に

資質・能力を
育む授業
探究型の学習

地域大好き
生活科・総合で
地域のよさを発見

なかよし班活動
全職員で6年生を
育てる

<働き方改革>

- 職員の意識改革
職員自身が「自分と向き合う時間」を確保し日々の生活を豊かにしていく。
- 学校の改革
「子どもと向き合う時間」を確保しゆとりを生み出す。
・金曜日 5 時間授業
・週 1 定時退校日
・会議・行事を見直し精選する。
- 同僚性の構築
・報・連・相を大切に
し、声をかけ合っ
てのりしろを広く仕
事を進める。

子どもを育てる各部の活動

<学び支援部>

- ①「学び」のスタンダード
学習の見通し・板書・ノート
- ②学びのつながり(授業・家庭学習)

<心の教育支援部>

- ③ユニバーサルデザイン・関係づくり
- ④なかよし班活動、清掃

<健康教育部>

- ⑤判断力の育成
(自立登校・感染症・生活リズム)
- ⑥いのちの教育(自他の自尊)

<運動会委員会>

- ⑦秋季大運動会

<学習発表会委員会>

- ⑧学習発表会

具体的な取組み

◇重点目標 1	◆重点目標 2
◇協働的、探究的な学び（資質・能力を育む授業づくり）◆ ◇立地条件を活かし、地域の良さを体感できる学習活動◆	
◇二大行事「運動会」・「学習発表会」	◆認め合い・助け合う人間関係の構築
◇自ら取り組む家庭学習の改善	◆学級経営
◇「よき歩行者」を育てる自立登校	◆なかよし班活動、なかよし班清掃

直後プラン作成

P計画

どんな子どもを育てるのか

A改善

実践の効果を上げる
直後振り返り
直後プラン作成

D実行

成果と課題を明確に

C評価

終わったら即！直後振り返り

教員一人一人が重点目標達成に向けた取組みを具現化する方法

学級カリマネ表（学級経営案）に基づくPDCA (学級経営評価と業績評価の一体化)	カリキュラム・マネジメント表に基づくPDCA (学期毎の振り返り)
---	--------------------------------------

重点目標を具現化する研究活動

研究主題

「仲間とともに、
自ら学び拓く子どもの育成」
～授業改善につなぐ
カリキュラム・マネジメント
を通して～

研究の内容

- ①学校経営とカリキュラム・マネジメント
- ②資質・能力を育むための「PDCA」
が見える持続可能なカリキュ
ラム・マネジメント表
- ③資質・能力を育む単元構成と授業
「派手さはないが欠かせないものはそろって
いるおばあちゃんの朝ごはんのような授業」
- ④事前研重視の授業研究（教材研
究、指導案作成、事前授業等）

<OJT の推進>

◆業務に直結する

研修の推進

1. 学び合う時間を設定
・授業づくり研・教育マイ
スター研を中心に計画
的に学び合う
2. 研修・会議の改善
・深化・進化する話し合い
・若手が活躍する場
・グルーピングの工夫
・ワークショップ型で気軽に
3. 職員面談の活用
・学習指導・学級経営
等の振り返り
・目標設定と評価の一本化
4. 日常的に・ライトに
・若手の育成(フォロー
アップ研)
5. 校内・校外研修の計
画的な推進
・山形市教職員研修の積
極的な活用

担任が授業づくり・学級づくりに専念できるよう教員の教育活動を支援する学校経営活動

1 組織・運営の改善 会議改革 教務	2 教育課程（含む行事や週時程）の改善等 教務	3 支え合う特別支援教育体制の見直し・改善 特支コ	4 家庭・地域との連携、教育資源の活用等 教頭
・月に1回の職員会議と運営委員会、毎週火曜日職員終会を行う。必要に応じて学年主任会を行う。 ・カリキュラム・マネジメントを推進する。特に、重点活動の「事前打合せ」「直後振り返り」を設定し、目標の共有と成果や課題を次の取組みに活かしていく。 ・教科担任制を導入し、教材研究の時間を確保したり学年担任団の連携を強化したりする。(学年単位)	・「宿泊学習」は、5年生が1泊2日で実施する。 ・スキー教室は3・4年で年間2回ずつ実施する。 ・学習発表会をフロア発表形式にする。(ステージ発表も可) ・1学期に個別面談を実施して、児童の育ちを共有する。 ・モジュールの有効活用と子どもに向き合う時間の確保 ・学習の評価は2期制とする。 ・指導と評価の一体化(形成的評価で授業改善を図る)	・特別支援教育コーディネーターを中心に、担任の困りに寄り添い支援する体制を構築する。担外が担任からの支援依頼に応えサポートする。 ・支援の必要な子どもの情報を整理する。 ・子どもの特性に応じた指導を通級指導教室(いきいき教室)で行う。また、別室での学習や相談を希望する子どものための環境を整える。	・学校や子ども達の情報が家庭・地域にタイムリーに伝わるように、学校からのお便り、HPを活用する。 ・地域の会議では、学校の方針や子ども達の様子を積極的に発信する。 ・子どもの学びに関わってくださった方の情報(人材バンク)を整理する。 ・学校運営協議会の機能をより活性化し、保護者・地域と連携して児童を育成する。